在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/04 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集　進路通信のルーツを探ろう！

毎年、月に２～３回発行されている進路通信。昨年度は教職員向け、センター試験の平均点一覧を合わせて３５回発行しています。さて、ではこの本校の進路通信はいつの時代から発行しているものなのか、当時の通信のコンセプトは何だったのか。私自身も含めてルーツを探ってみましょう。

本校は平成 15 年６月に文部科学省から「学力向上フロンティアハイスクール事業」の研究指定（３カ年）を受けていました。、その中間報告・最終報告の中で述べられている「進路通信」に関する記載を抜粋します。

『抜粋　はじめ

１、進路通信の基本的な考え方

毎年膨大な量が発行される本校の「進路通信」は、次のようなコンセプトで作成されています。

①対象を「第○学年生徒」「第○学年保護者」「教職員」と限定せず、あえて「生徒・保護者・教職員」とすることで、本来「進路」に対して共通の認識を持つべきことが望ましい三者間の情報の共有化を図る。これは三者間のコミュニケーションを図るための有効な手段となり得る。

②「進路」に関する情報といっても特に第１学年の生徒には、なかなか理解が困難であることが予想されるが、あえて３学年共通の情報を提供することで、この時期何をなすべきかということを３年間反復学習させ、強固に定着させる機会が生まれる。

③定期的かつ継続的に配布することで「進路」に対する意識の高揚、および学校に対する帰属意識の醸成を図ることが出来る。

④学校で何が行われているのか、実際の所保護者にはなかなか見えない。学校では現在こういった進路指導が行われているということを保護者に知らしめることにより、小中では積極的だが、高校になるとなかなか学校に足の向かなくなる保護者を再び学校に引き戻すことが可能になり、保護者の理解と協力とを得ることで、個々の生徒に対する進路指導の深化と学級担任とのよりスムーズな連携が期待出来る。

⑤本校の進路指導理念を十分に反映させた、意識的な情報提供が可能となる。

本校における現行の形の「進路通信」は、発行後５年を迎えようとしています。まさに「継続は力なり」の言葉通り、生徒はもちろんですが、説明会等で保護者と顔を合わせる機会があると必ず「毎号楽しみにしています。」「子供が出さない時は催促しています。」「鞄をひっくり返して取り上げてます。」と声をかけていただけるようになり、確かな手応えを感じることができるようになりました。

後は学級担任の先生方に是非有効活用をお願いしたいと思います。（中略）

「進路通信」の真の役割は「きっかけ」作りなのかも知れません。

抜粋　終わり 』

その以前の進路通信は年に４回発送される通知箋と一緒に同封したり、教職員向けに発行するなど、かなり発行数が少なかったり、単発的なものだったようです。

平成 14 年に進路指導部でコンセプトを作り、平成 15 年から実質的に現在の形がスタートしています。この形を創り上げた天内進路指導部長から始まり、浅野部長、高嶋部長、福本部長、そして私こと飯田一三が引き継ぎ、めんめんと続いています。

天内先生はこうも述べています。

『　本校の独自の取り組みとしてすっかり定着した「進路通信」であるが、現在の様に進路指導部長が「個人技」レベルで発行している形式には所詮限界がある。マンネリに陥らないよう絶えず内容の充実を図りながら、かつ継続されなければ、せっかくの試みも、近い将来駄目になってしまう。また対象を「生徒・保護者・教職員」と一本化したことで、内容がどうしても受験期を迎えた第3学年の生徒や保護者に偏りがちな傾向にある。そこで次年度以降は、次の2点に絞って、更なる浸透を図っていくことにした。

①月3回発行の「進路通信」（進路指導部長編集）は次年度以降も継続発行する。同時に進路指導部の各学年担当が、毎月1回、学年の現状に合った独自のものを継続発行する。

②①に伴い、従来保護者や生徒に示すことが少なかった、スタディサポートや模擬試験のデータ、果ては進学講習の開講状況や参加人数等も積極的に公開していく。　』

現在ではスタサポや模試のデータ分析については学年通信などで公開しています。さて、今年度はやはりセンター試験に替わる新しい試験やの導入や個別大入試の変化に関すること、思考力・判断力・表現力やアクティブラーニングなど新しい学力観に関わることもどんどん情報が入り次第掲載していきます。また、大手予備校や事業所の教科研究会やセンター試験の分析会に参加していただいた先生方のレポートもこれまでと同様掲載します。こうした研究会に参加する先生方の旅費は保護者の皆様からいただいた諸納金の進路費や講習・模擬試験代から支出しているものです。

始業式・入学式で校長先生が話していたことをもう一度思い出してみましょう。

「角を取って小さな○にするのではなく、角を多くして大きな○にしよう！！」

昨年度はさまざまな研究会に参加された先生方のレポート以外にも、探求活動やＳＳＨ事業について担当の先生に進路通信を執筆していただきました。進路通信は私が中心ではありますが、これからもより多くの先生方で執筆していく予定です。また、上記に述べたように、さまざまな情報を取り上げていきます。こうして創り上げた進路通信は校長先生が言う角を多くすることにつながります。

そして、生徒の皆さんはこの通信を読んでさまざまなことを**感じてください**。それぞれ感じることは千差万別。隣の友人と同じ感じ方でなくても全くかまいません。大切なのは読んで何かを感じること。何かのきっかけでもいいですし、実際に行動するのもいいでしょうね。角を多くして大きな○にすることは湖陵の「志を高く持ち、易きに流れず」にもつながっていくことは間違いないですからね。

尚、今年度の通信は原則として進路指導部副部長の奥田先生、進路指導部で国語科を担当している一瀬先生に校正していただいた上で発行します。

◆Ｇ・Ｗ（黄金週間）の挑戦　まずこの一歩　～計画学習のすすめ～◆

新学期が始まり、学校にも少しずつ慣れてきた頃でしょうか。来週から、約１週にわたって世間ではゴールデン・ウィークに入ります。部活動の練習試合や大会など忙しい日々が待っている人も多いでしょう。4 月はあっという間に終わったという人も多いでしょう。

さて、4 月当初のことを思い出してください。湖陵生の中には「新学年からは勉強頑張ろう」と思いを新たにしていた人も多いことと思います。その気持ちは、一体どこに行ってしまったのでしょうか。答えは簡単です。「どこにも行っていません。」自分で海の底に沈めているだけです。

4 月から気持ち新たに学習に取り組んでいる人、それを継続している人、立派です。是非このＧ・Ｗでそれが途切れないよう、頑張ってください。そういう人については、今回の通信は「学習を途切れないようにするため」「より質の高い学習をするため」に利用して下さい。
問題は、自分の意欲を海の底に沈めて、自分でも気づかなかったことにしようとしている人、何から取り組んでいいか分からず手をこまねいている人、Ｇ・Ｗをひとつのきっかけにしてほしいです。チャンスはいつでも訪れるわけではありません。しかし、Ｇ・Ｗは明らかにチャンスなのです。

■センター試験まであと 1 年なんてとんでもない。残り、1 年の約７４％

表題にある通りです。入試までのこの「距離感（時間の感覚）」をしっかり自分にたたき込むことが、まず大切です。3 年生以外の人、無関係ではありませんよ。4 月のこの時点で、大学入試センター試験までの 1 年間のうち、約 4 分の 1 の時間はすでに経過しています。残り 1 年の約 4 分の 3 の時間しかないのです。学習の密度や質以前に、絶対的な学習時間不足に陥らないよう、このＧ・Ｗの使い方が大切なのです。

■　少しでも計画したり、見通しをもってやった勉強＝「勉強」

湖陵生の皆さんに尋ねます。この 4 月どのくらい「勉強」しましたか。「勉強したら受かる可能性が増す」という言葉は正しいと思いますが、そこで使われている「勉強」の意味は、上に示した通りです。そこまで考えていなかったという人、今日からはじめましょう。

■どうする　今日からの「勉強」

計画や見通しをもって勉強すると一言で言っても、そう簡単なことではありません。簡単なことではないので、それを実行できた人は、きちんと夢の実現に近づけるのだと思います。
1 年生には宿泊研修で確認しましたが、綿密な計画でなくても、学校の休み時間に、少しでも「今日自宅で学習すること」を箇条書きにしてみるなど、できることから「見通し」をつける練習をしましょう。Ｇ・Ｗについては、裏面のシートを利用するのもひとつの方法です。
■「計画」や「見通し」をつけるときのコツ

①達成したい目標を決める。
②取り組みたい内容を考えて、箇条書きにする。
③箇条書き例　　・４ＳＴＥＰのｐ〇～ｐ△
　　・学校の宿題プリント２枚
④取り組んだら、「印をつける」など、終わったことを自分で確認できるようにする。
⑤計画したことをどこでやるか、時間表に記入してみる。
⑥これがコツの中のコツ　→　「ふりかえり」
・Ｇ・Ｗ最終日、計画と実際の達成度合いとを比較して、考えたことを書いてみる。
・「よかった」「よくできた」「あまりできなかった」「半分しかできなかった」などと単純化しないことが一番大事。それは、計画表と終わった印をみれば他人でも書くことができる。他人でも書くことのできるものならば、あまり書く意味がないですよね。書く意味は自分で作るんですよ。足りなかったもの、うまくいかなかった原因、うまくできた理由などを、単純化せずに入れられるだろうか。制限時間は１５分です。

☆　⑥が「コツのコツ」たる理由
計画を立てて実際学力を伸ばした人とそうでない人との違いがここにあると考えるからです。書いていなくても、達成度合いなどを面談で、克明に語ることのできる生徒は、自然と次の計画や見通しを立てるときに経験を先輩方は活かしていた気がします。

⑦午後から部活動の練習等がある人へ
部活動へ行くまでの「午前中の時間」を大切にしてほしいです。「朝ゆっくり起きて、朝だか昼だかわからない食事を食べ、時間がきたと言って出かける」というスタイルでは困ります。「午前中の時間の使い方」が自分の進路を切り開く時間だと考え、1 時間でも学習して部活動に行くことを強く勧めます。「しんどかったけれど、やってよかった」という先輩方の声も多く聞きますから、午前中学習を実践してみましょう。
部活動前に学習すると、帰宅後も学習になぜか入りやすいようです。午前中に学習しなかった場合、帰宅後もダラダラして、メリハリがつかないまま、就寝時間になってしまったというのは、よく聞く話です。

■余力のある人へ

守るだけでは勝負に勝てません。「攻め」が大切です。今時期の（受験）勉強においての「攻め」とは、「難しいことではなく、簡単そうにみえるが、他の人が努力していないようなことを実行すること」です。「計画」「見通し」に関することをやった上で、さらに、「攻め」のことも考えるとよいでしょう。「攻め」しかせず、しなければならない宿題やＧ・Ｗあけの授業準備などがおろそかになってはいけません。

■ＧＷの計画を考える

①Ｇ・Ｗに達成したい目標を決めます。

②各教科で取り組みたい（取り組まなければならない）ことを箇条書きにして整理します。

【教科名　　】

【教科名　　】

【教科名　　】
